

# 留萌市「道の駅」基本計画

令和元年 1 2 月

# 目次

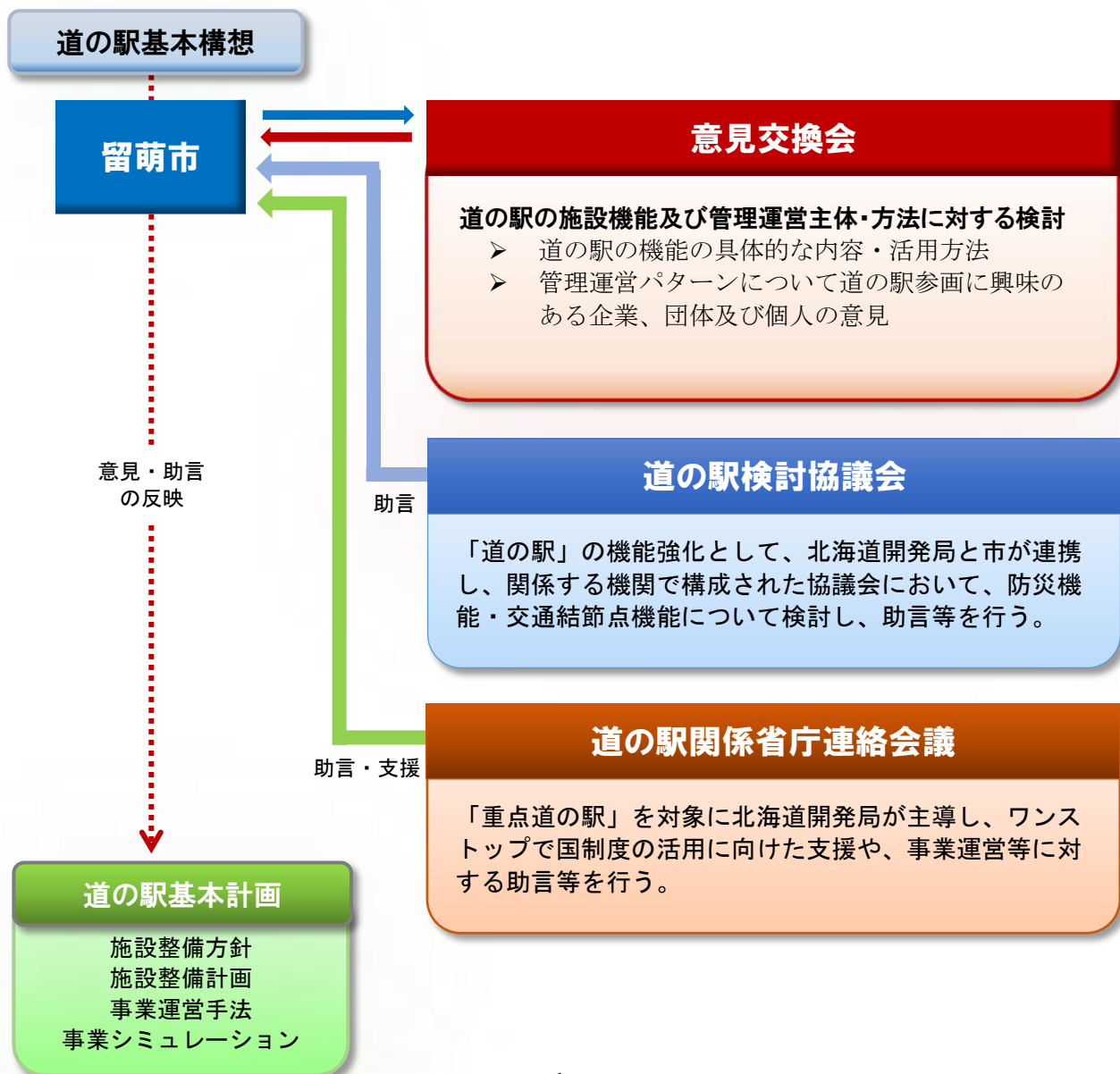
	ページ
1. 道の駅基本計画の策定経過	1
2. 基本的な方針	3
(1) 道の駅の目的	3
(2) 道の駅の計画地の概要	3
(3) 道の駅のコネクト	4
(4) 道の駅で展開する機能	5
(5) 道の駅のターゲット	5
3. 施設整備方針	7
(1) 道の駅に求められる施設のニーズ	7
(2) 導入機能別施設整備の方針	8
4. 施設整備計画	14
(1) 既存施設の内容と規模	14
(2) 施設の規模	15
5. 事業運営手法	21
(1) 管理・運営のあり方	21
(2) 管理・運営の手法選定方針	22
(3) 道の駅運営等に向けた検討組織体制	22
6. 事業シミュレーション	23
(1) 全面交通量による来場者数予測	23
(2) 全面交通量による消費予測	24
7. 今後のスケジュール	25
<b>【参考】</b>	
留萌市道の駅基本計画（素案）に対するパブリック コメント結果	26

# 1. 道の駅基本計画の策定経過

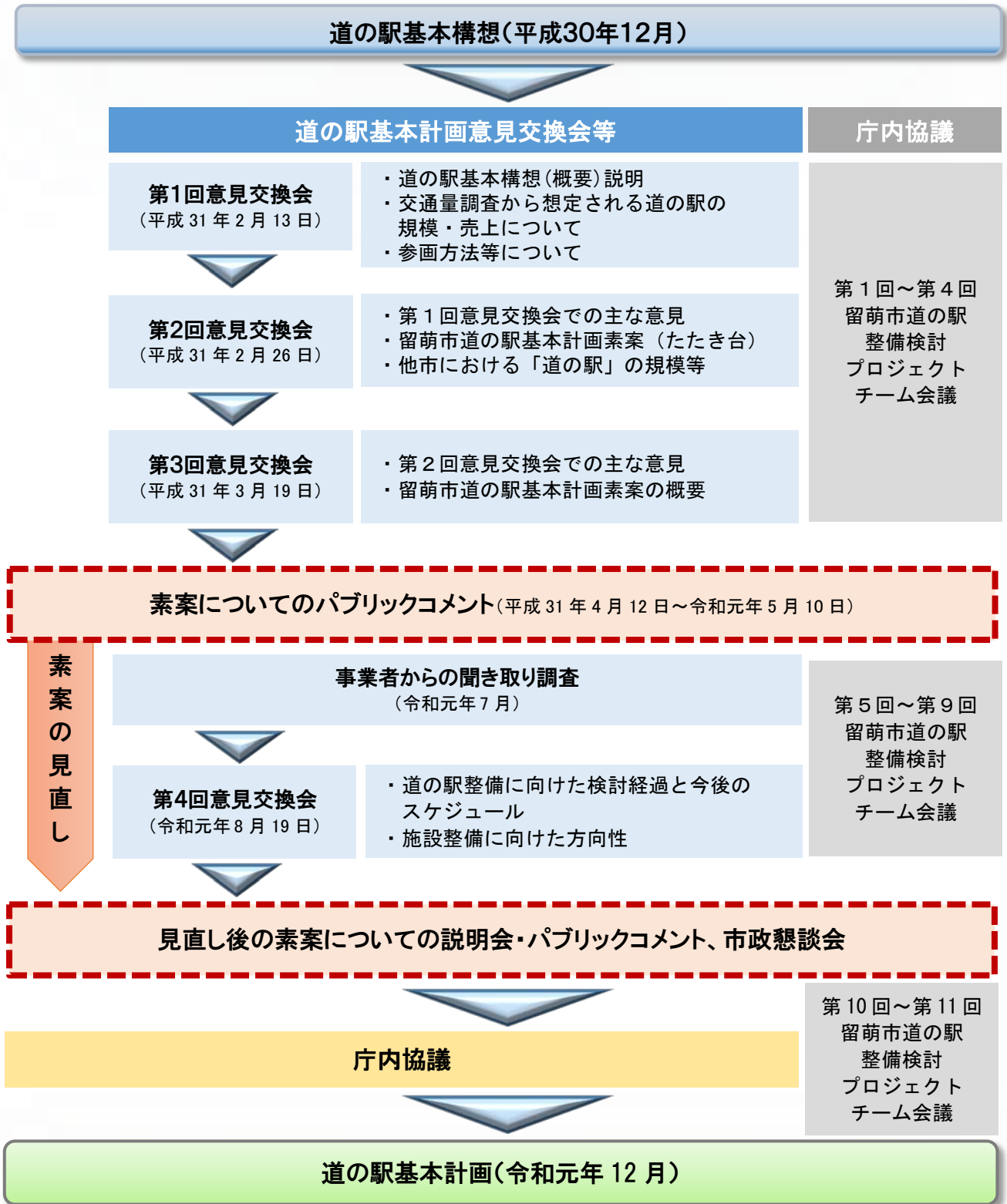
この道の駅基本計画は、第6次留萌市総合計画基本構想における基本政策の目指す姿として掲げる「地域産業の活性化と起業の促進、働きやすい環境づくり」や「魅力あふれる留萌ブランドの発信とおもてなしの向上」を実現するための具体的方策として、平成30年12月に策定した「道の駅基本構想」に基づき、「基本方針」、「導入する機能」、「施設の基本コンセプト」、「施設整備方針」、「管理運営方法」など、基本的な考え方を整理し、今後の新たな施設整備や管理運営に向けた方向性、骨格として示すものであります。

策定にあたっては、既存公園施設である「船場公園」整備時における住民協議を踏まえた施設概念をベースに、新たに道の駅機能として導入、付加する施設機能や事業運営方法について、道の駅参画に興味のある事業者、団体などとの意見交換会をはじめ、関係団体との協議や、意見内容等を反映し、本基本計画の策定を行ったものであります。

## ●留萌市道の駅基本計画の策定の流れ



●道の駅基本計画意見交換会等の開催状況



## 2. 基本的な方針

### (1) 道の駅の目的

高規格幹線道路「深川・留萌自動車道」の全線開通により、道路アクセスが向上し、域外からの新たな流入人口の増加が予想され、道路利用者の快適性の向上や観光をはじめとした来訪者への適切な情報発信、さらには、親子や地域住民などが、ゆっくり時間を過ごせるくつろぎの空間を提供し、隣接した街中へ消費誘導することで、地域の稼ぎを導くための役割が発揮できる施設機能を目指し、「道の駅」の登録を行うものであります。

また、留萌管内の玄関口であり、国道231号、232号及び233号からの広域交通を受け止める広域交流機能拠点としての立地環境と役割を発揮し、管内や道北エリアにまで及ぶ地域資源や食、人、活動などの情報発信や、管内道の駅との効果的な連携を図りながら、地域の魅力や付加価値が高まることが期待されます。

### (2) 道の駅の計画地の概要

本道の駅は、国道231号に面した留萌市船場公園全体を含むエリアでの約7.8haの敷地面積で計画しています。なお、本道の駅は周辺環境の変化や、利用者の利便性を考慮し、必要に応じて拡張していくものとします。



### (3) 道の駅のコンセプト

都市公園として既に供用を開始している「船場公園（るしんふれ愛パーク）」の立地条件と施設機能を十分に活かし、中心市街地や重要港湾留萌港に隣接した「都市型情報交流拠点」の道の駅として、基本構想で掲げた基本コンセプトに基づき、導入する機能・施設コンセプトを以下の3つに掲げながら、新たなニーズや周辺環境の変化に応じて段階的な拡張整備を進めていきます。

#### (基本コンセプト)

- 留萌の玄関口となる「広告塔」としての道の駅
- 留萌ならではの体験できる道の駅
- 都市公園が有する機能を最大限発揮した道の駅

#### (導入する機能・施設の基本コンセプト)

- ① 道路交通の結節点として、地域情報の集約・発信や車中泊等の新たなニーズへの対応など、多様な来訪者の受け入れとまちなかへ誘導

高規格幹線道路「深川・留萌自動車道」の終点となるインターチェンジや中心市街地、留萌港と近接する立地環境や景観を活かし、「観光」や「地域資源」、「買い物」や「まちなか」等の情報発信のほか、管内道の駅との連携、さらには、交通結節点としての情報提供機能を併せ持った「コンシェルジュ」機能や、キャンピングカー等の車中泊専用駐車場の整備により新たなニーズの受け入れなど、まちなかへの周遊と消費活動により好循環化を図ります。

- ② 地域製品の販売促進、PR、飲食や調理体験などを通じ、地域製品の販路拡大や、地域ブランド構築を支援

市内や地域の店舗へ誘導するための地域特産品等のアンテナショップ機能や、新鮮な地元の農水産物のほか、「るもい浜焼き」をはじめとした飲食の提供、さらには、地域事業者や団体、農、漁業者や地元高校生等によるイベントの開催など、地元産品を活用した地域ブランドの構築を支援し、販売促進や販路拡大による、地域の稼ぎと経済活動の活性化を促します。

- ③ 公園施設の活用と一体的に、子どもの遊び場づくりや、子育て世帯を支援する環境を整備

多目的公園施設として、「遊び」・「憩い」・「学び」の機能に加え、子育て世帯に配慮した、妊婦向け屋根付き駐車スペースの確保や、24時間授乳可能な個室エリアの整備のほか、親子で時間を過ごせる屋内での子どもの遊び場づくりなど、家族が気軽に集える場としての空間づくりを進めます。



## (4) 道の駅で展開する機能

本道の駅では、既存の公園施設や海に面した景観などの立地的な優位性を活かしながら、道の駅の基本機能である「知る」機能（情報発信）、「休む」機能（休憩・交流）のほか、地域連携機能として「楽しむ」機能（イベント開催）、「学ぶ」機能（体験学習）や、地域の特産品や地元製造業者などが作った商品を揃え、アンテナショップとしての広告塔機能を発揮する「買う」機能（物販機能）、「るもい浜焼き」やテイクアウト品などを提供する「食す」機能（飲食）、新たに人を呼び込む機能としてキャンピングカー等車中泊専用駐車場の整備や、親子で時間を過ごせる屋内交流・遊戯施設の整備など、道の駅を目的地化するための「コト」づくりについても、段階的に進めていきます。

また、新たに道の駅に求められる機能として、防災機能や交通結節点機能の確保についても、段階的に検討を進めていきます。

## (5) 道の駅のターゲット

本道の駅におけるターゲットを考えるにあたり、平日と休日に分けてより具体的にターゲットを検討することが重要です。

### ① 平日のターゲット

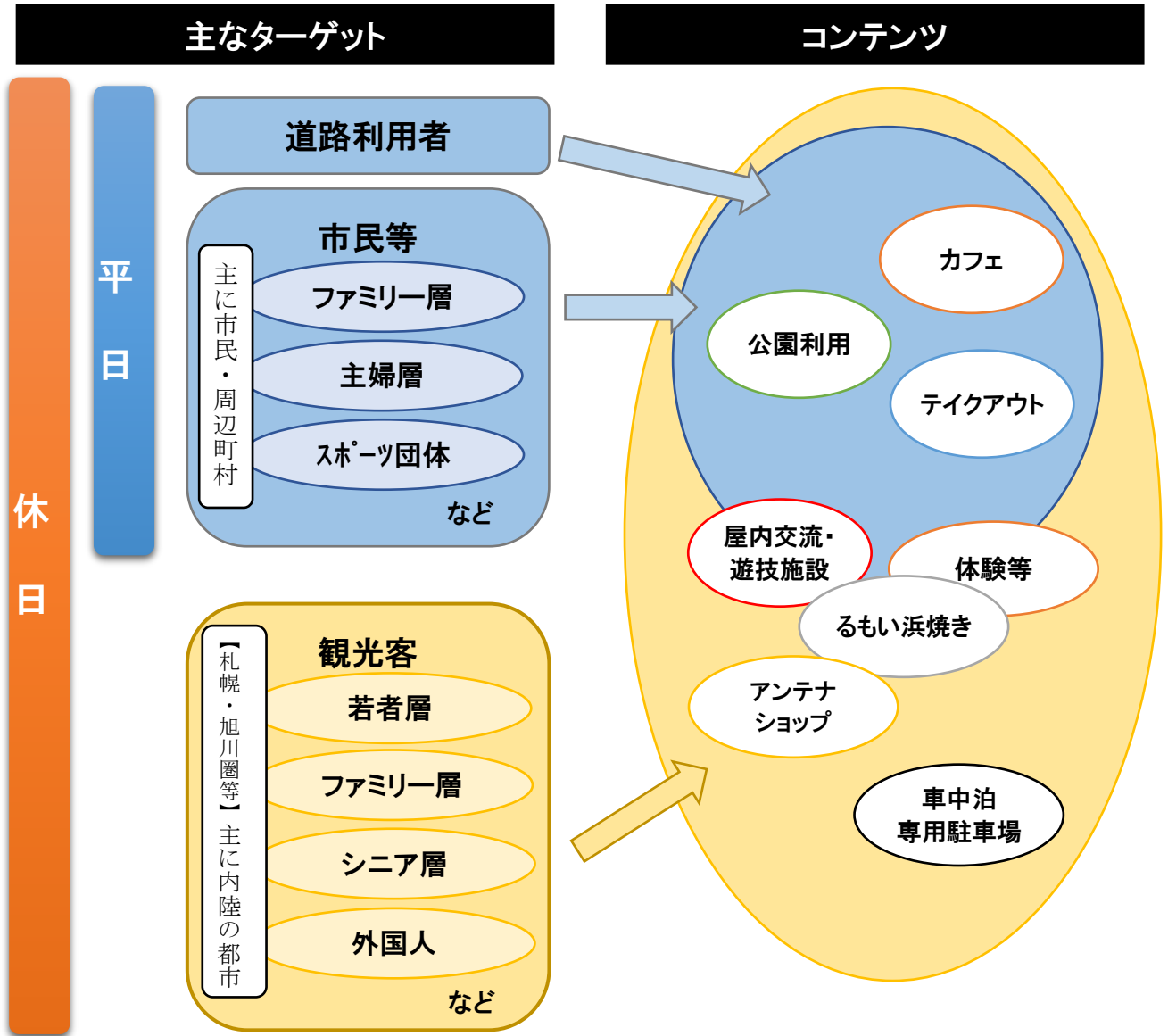
平日においては、周辺の観光施設においても観光客が少ない状況にあり、本道の駅が単独で観光客を集客することは困難であると考えられます。よって、平日のターゲットについては、地元客の特に主婦層やファミリー層など、公園利用を目的とした利用者層が、休憩スペースで飲食物を購入し、カフェ感覚での利用を楽しんだり、地元の子どもたちが公園遊具などを使い、遊び場としての活用や、屋外スポーツ団体の利用のほか、営業等で立寄ったドライバーの休憩場所としての軽食利用などが想定されます。

### ② 休日のターゲット

休日は、平日のターゲットに加え、観光客についても誘客を図ります。留萌市に来る主な目的の上位が、「ドライブ」、「海水浴」となっており、留萌市までの主な交通手段の大半が自家用車となっている現状から、道路利用者の立寄り率を高めるための誘客する「目的型のコンテンツ」の開発を図ることが重要です。具体的には、近年、キャンピングカーをはじめとした車中泊による滞在ニーズへの対応や、「るもい浜焼き」の食材をその場で味わえる場の開放、観光客や地元住民が子どもを遊ばせながら、大人がゆっくり時間を過ごせる施設機能の充実などにより、周辺地域のみならず、札幌、旭川といった海に面していない都市部との立地アクセスの優位性を活かし、道の駅への集客から市内、地域への動線に繋げていくことが重要です。

また、訪日外国人観光客や個人の海外旅行客などのニーズへの対応や、外国人向けの観光案内標記などへの対応、体験メニューの提供などについても一元的に対応可能な体制の構築を図っていきます。

# ●想定するターゲットの考え方





### 3. 施設整備方針

#### (1) 道の駅に求められる施設のニーズ

施設の整備にあたっては、道の駅の主な利用者ニーズの充足度を意識することが重要です。道の駅は、制度創設以来四半世紀が立ち、現在、全国で約1,150箇所を越え、道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供や、地域の振興に寄与することを目的に、地域とともにつくる個性豊かな賑わいの場と拠点機能として、道路サービスの提供にとどまらず、道の駅自体が「目的地化」するような、サービス機能の強化が図られています。

現在、国土交通省では道の駅の「新たなステージ」に向けた検討を推進するため、「道の駅のあり方検討会」を開催し、地方創生を更に加速するための新たな施策や、道の駅に求められる今後の新たな役割などについて議論がなされており、これらの動きも見据えながら、今後の施設ニーズを検討することが必要です。

#### 「アンケート調査(2018.8月～9月実施)」結果概要（信金中央金庫）

- ① 「地域産品(農水産物)の直売機能」のニーズが最も高い。(特に留萌の場合には海産物)
- ② 「土産品販売機能」、「軽食スペース機能」、「飲食機能」は大きな差がなく、ニーズも高い傾向がある。
- ③ 市民アンケートでは、「人との交流(イベント開催)」、「子ども向け施設(授乳室・おむつ交換・キッズルーム)」が高い傾向にある。

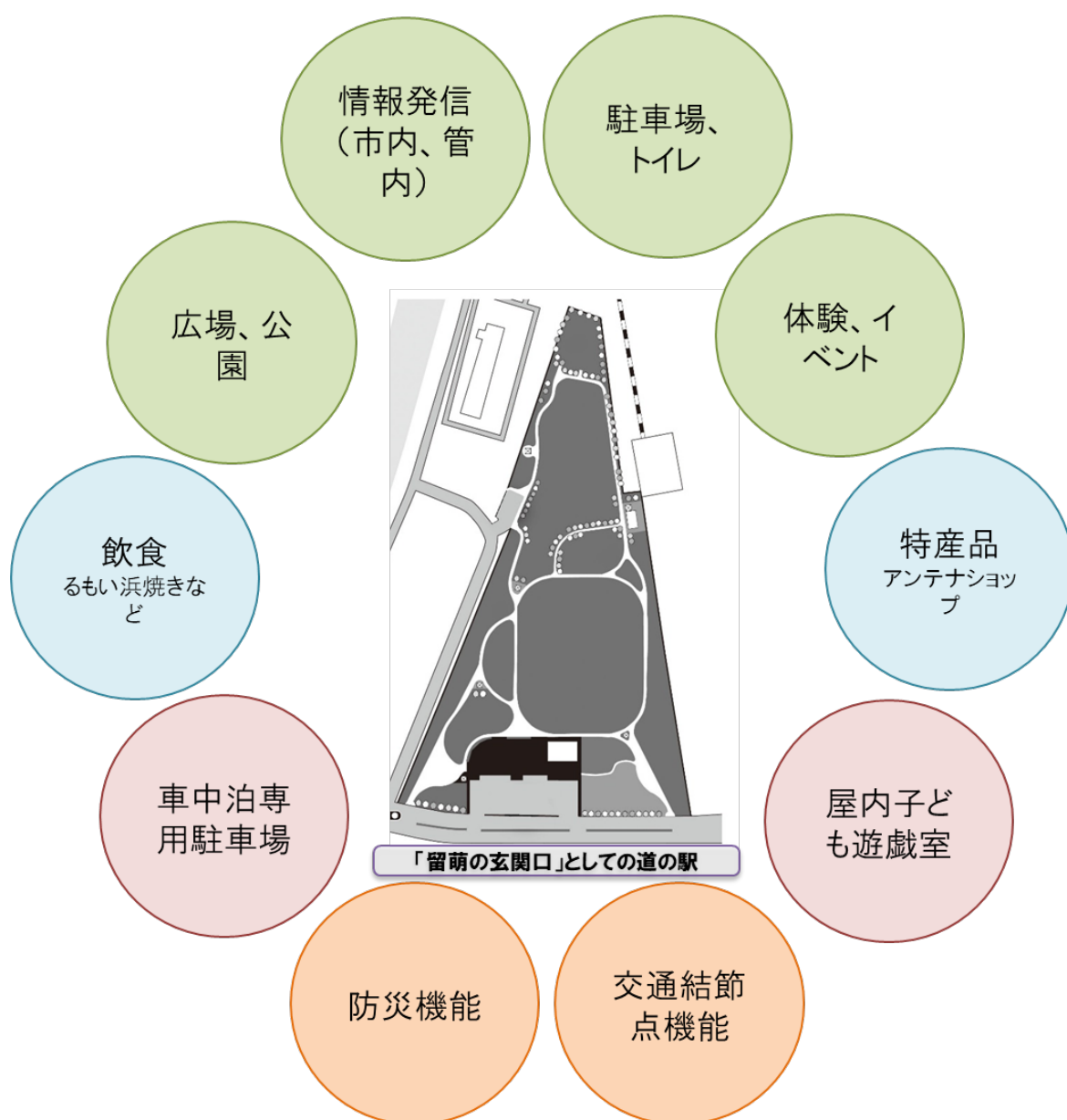
上述したアンケート結果のほか、近年は、キャンピングカー等の車中泊により、長期間に渡って地域を周遊する旅行ニーズも増加しており、多様な利用者等を考慮した施設機能・サービスを考えることが必要です。

また、市外からの住民が留萌市に来る目的として高い「ドライブ」と「海水浴」の来訪者も主たるターゲットに位置付け、特に、海に面していない札幌市民、旭川市民といった道内都市部の住民を受け入れるための「コト」づくりや、市内へ周遊させるための情報発信の充実、さらには、これからの道の駅に求められる子育て支援機能や交通結節点機能、災害時における広域防災上の機能強化など、市民や道路利用者の安心安全への貢献や、役割を発揮するために、十分対応可能となる施設内容について検討していく必要があります。

## (2) 導入機能別施設整備の方針

道の駅で展開する、「知る」機能（情報発信）、「休む」機能（休憩、交流）のほか、地域連携機能として「楽しむ」機能（イベント開催）、「学ぶ」機能（体験学習）と、「買う」機能（物販）、「食す」機能（飲食）については、既存の公園施設の活用を基本としながら、民間事業者のテナント誘導を図る物販施設のほか、利用者が目的地化できるキャンピングカーをはじめとした車中泊専用駐車場や、観光客や地域の親子が時間を過ごし、情報入手や交流可能な屋内交流・遊戯施設については、「重点道の駅」の選定に伴い国補助制度の活用も検討し、市民意見等も取り入れながら後年度、段階的な整備について検討を進めるものとします。

【道の駅での導入機能概念図】



## ①「知る」機能（情報発信）の施設整備方針

### I) 情報発信の目的

「知る」機能については、道の駅の本来の目的である道路利用者のための道路・交通情報の発信のみならず、管内や道北エリアも含め留萌地域のあらゆる情報を集積し、道の駅の各機能や留萌の魅力を発信する重要な役割を担っており、道の駅を起点に交流人口の拡大による地域経済の活性化に向けて、街なかや観光施設等への誘導による相乗効果を図ることを目的とします。

### II) 道の駅の情報発信のあり方

現在は、インターネットの普及により、気軽に情報が得られ、わざわざ現地に行かなくても買い物ができる環境にある一方、近年においては、「道の駅めぐり」が道内外観光客の旅行目的の上位となっていることから、道の駅に対する関心が高まっています。このような状況から、これからの道の駅の情報発信のあり方については、来訪を促す情報発信や観光案内だけではなく、各機能が連動して道の駅に来ることの価値観や留萌の道の駅でしか得られない満足度を高め、リピート率を向上させていくための方策が重要です。

### III) 効果的な情報発信の手法

道の駅来訪者に向けた情報発信の効果的な手法として、「食べる」、「買う」、「観る」、「遊ぶ」などのテーマ別に、施設やお店をピックアップし、専任の「コンシェルジュ」による来訪者の滞在時間や行ってみたい場所など、個人の意向に沿った形の観光周遊プランの提案や、新たな観光体験メニューの発掘、提供のほか、市内や地域店舗での商品の紹介により、道の駅のみならず、回遊性を持ちながら街なかや管内への誘導に繋げる手法について検討します。さらには、シーニック・バイウェイ等、地域の関係団体と管内の交通情報の発信について連携していきます。

【道の駅みそぎの郷きこない】（木古内町）



【道の駅世羅】（広島県世羅町）



## ②「休む」機能（休憩・交流）の施設整備方針

### I) 休憩施設整備の基本

道の駅休憩機能のうち、必須条件である「24時間無料で利用可能な駐車場とトイレ」については、既存の公園施設に完備されており、また、屋外の休憩施設（四阿・ベンチ）についても公園施設内に配置されていることから、道の駅開業当初においては、これらを活用します。

また、屋内の休憩施設については、軽食の提供や特産品販売スペースの配置などと合わせ機能的で効果的な配置を検討し、留萌の港や夕陽が一望できるよう、2階の展望スペースについても有効活用を図っていきます。

### II) 駐車場整備の拡充

道の駅開業後においては、駐車場スペースの再配置や拡張を想定しながら計画地を設定し、再整備にあたっては、大型専用車両の駐車場所やキャンピングカー等の車中泊専用スペースの配置、自転車や自動二輪車の専用スペースなど多様な利用者の交通形態に合わせた検討が必要です。

### III) 社会ニーズに対応する機能の整備

道の駅の整備にあたっては、基本的機能のほか、新たに妊婦向けの屋根付き駐車場の設置のほか、24時間利用可能な個室授乳スペースの確保、ばら売りおむつや液体ミルクの自動販売機の設置などの子育て支援機能への対応のほか、管内でも増加傾向にあるインバウンドへの対応や、災害時における広域防災上の拠点機能への対応についても、運用の検討を進めます。



「管理棟多目的トイレ」



現在の駐車場



「妊婦向け屋根付き駐車場」



「個室授乳スペース」



### ③「楽しむ」機能（イベントの開催）・「学ぶ」機能（体験学習）の施設整備方針

#### I) 機能整備の基本と目的

「楽しむ」機能と「学ぶ」機能については、新たに施設を整備するのではなく、既に公園施設で行われているイベントの開催や体験学習の拡充、実施メニューの充実などの環境整備を基本とします。

日常から、「楽しみ」や「学び」を得られることで、留萌市民が利用したい、又は利用しやすい環境を整備することが必要であり、その先に、留萌市外からの道の駅来訪者の増加を促し、満足度やリピート率を向上させていきます。

#### II) 公園全体の活用や期間限定のイベント開催

現在も「かずの子のマチ留萌フェスタ」や「るもい呑涛祭り前夜祭」、「やん衆盆踊り」などの市民向けのイベント会場として活用されており、道の駅開業後においてはこれらに加え、多目的芝生広場を活用したイベントの開放や、「うまいよ！るもい市」の開催など、地域事業者や市民団体等と連携しながら、公園内のイベント広場等を最大限活用した催しを展開していきます。

#### III) 地元食材の活用や留萌の四季を感じる体験学習

留萌市には、留萌産オリジナル小麦「ルルロツソ」や「南るもい米」のほか、他地域に誇れる優れた加工品や地場の農・水産物を使った調理体験、古くから伝わるニシン漬けなどの郷土料理体験、留萌の四季の自然環境や地域資源を活かした「学び」の場の提供など、子どもから大人まで幅広い世代向けに「留萌ならではの」体験イベントの充実を図っていきます。

また、冬季間における公園利活用策についても、遊具や冬のスポーツ体験、地吹雪体験などのイベント開催により、通年利用を促す取組を検討します。



## ④「食す」機能（飲食）の施設整備方針

### I)「飲食」施設整備の基本

留萌市への来街者アンケートによると、目的地以外に立ち寄った先で最も多いのが飲食店となっており、「飲食」に対するニーズを満たす方策についての検討が必要です。

道の駅での短い滞在時間を考慮し、本道の駅で提供する飲食については、短時間で持ち帰りができる手軽なテイクアウト品メニューのほか、留萌地域の食素材や加工品等を活かした軽食メニューの提供など、カフェとしても利用できる空間づくりを検討していきます。また、市内には寿司店をはじめとした留萌の魅力を発信できる飲食店が充実していることから、道の駅内にはレストランのような本格的な飲食施設は配置しないものとしますが、地元商店街等の優れた商品などを道の駅での提供や紹介することで、街なかや近郊にある飲食店等への誘導を図っていきます。

### II)「るもい浜焼き」の提供

海のマチ留萌では、夏になると家族や仲間達が外でバーベキューを楽しむ食文化があり、肉と一緒に魚介類を焼く「るもい浜焼き」を地元客や観光客が常時楽しめるような、全天候型の施設の設置と、食材についても市内事業者の協力を得ながら提供できるような体制について検討します。

## ⑤「買う」機能（物販）の施設整備方針

### I)「物販」施設整備の基本

「物販」機能については、「広告塔」として地域性のある特産品や、加工品等の商品を中心に、地域住民のハンドメイド品などの出品も募りながら、併せて周辺地域の商品も紹介し、販売品目の充実に努めます。

### II) 農水産物の産直販売

道の駅の利用者ニーズとして高いのが、産直野菜等の農水産物であります。地場の農水産物については、季節的にも通年での提供は難しい状況ですが、市内や近郊生産者の協力を得ながら、夏場を中心とした産直野菜や果樹の他、冬季間も水耕栽培によるクリーンな葉物野菜や越冬野菜、良食味米である「南るもい米」など、販売品目の充実に検討します。

また、水産物についても、「浜焼き用食材」として、生産者や仲卸業者等の協力により、干し魚など前浜で採れた海産物の提供体制を検討します。

## ⑥利用者が「目的地化」できる機能の施設整備方針

道の駅全体を目的地化するための「コト」づくりや、魅力付けを行っていく機能として、キャンピングカーをはじめとした車中泊専用駐車場のほか、公園機能との連携を図りながら、観光客や地域の親子が時間を過ごし、情報入手や交流しながら、親子でゆっくり時間を過ごせる屋内の交流・遊戯施設の整備により、併せて市内公園や遊具機能の集約・強化を検討します。

## ⑦新たな施設ニーズへの対応

道の駅については、これまでの施設機能を維持しつつ、近年の全国各地での自然災害が頻発化・激甚化する中において、「防災拠点」としての役割が注目されています。道の駅の登録予定箇所である船場公園は、日本海沿岸に位置する幹線道路である国道231号に面し、深川留萌自動車道の留萌IC（仮称）や主要な物流拠点である留萌港が周辺に位置するなど交通の要衝であることから、地域防災計画へ位置づけを行い、ホワイトアウト発生時等において、道路利用者の一時的な避難場所としての活用や、災害時における防災物資集積の拠点など、管内の広域防災上の拠点として機能することが求められています。今後、広域連携を強化し他の道の駅とも連携を図りながら、防災機能を強化するとともに、災害時における電源供給や、必要な防災資機材の確保など、国、道とも連携の上、環境整備を進めていきます。

また、道の駅を利用した「交通結節点」の機能として、今後、市内バスと都市間バスの乗り継ぎや、中長期的な観点において新たな交通手段が必要となった際には、市全体の検討の中で、関係者間での協議により、新しい交通の形を模索する必要があり、その際に、道の駅が拠点となって担える交通機能や新たなモビリティサービスの導入の可能性について検討を進めていきます。



## 4. 施設整備計画

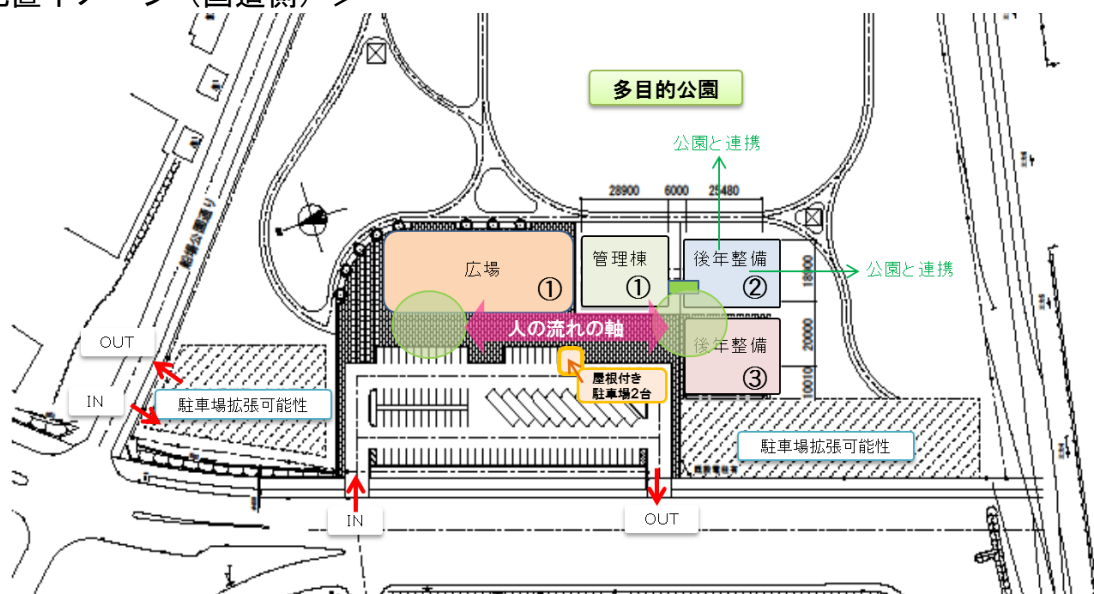
### (1) 機能別施設の内容及び施設配置

道の駅の開設にあたっては、既存の公園施設の有効活用を図りながら、施設整備方針に基づき導入する内容を検討し、段階的に新たな施設整備を行っていきます。

#### <機能別施設内容一覧>

基本機能		施設内容	既存	新設
情報発信機能		●地域・観光インフォメーション、情報コーナー(管理棟1階)	●	
		●道路情報(道路スポットWi-Fi)		●
		●無料Wi-Fiスポット	●	
		●公衆電話(災害時優先機能)		●
		●多言語案内サイン		●
休憩・便益機能		●24時間無料駐車場(第1/小型用80台、大型用9台、第2/小型用16台)	●	
		●24時間トイレ(男性用大小10箇所、女性用7箇所、多目的トイレ2箇所)		
		●妊婦、身障者向け屋根付き駐車スペース(2台)		●
		●屋外四阿・ベンチ、展望休憩室	●	
		●24時間対応授乳スペース(個室)		●
	●駐車場拡張、車中泊専用駐車場		●	
レクリエーション・修景機能		●多目的芝生広場(約18,000㎡)、パークゴルフ(9ホール)、ドッグラン(約2,500㎡)	●	
		●虹のガーデン、ハーブ園	●	
地域連携機能	特産品等販売	●屋根付き物販棟(公園付帯施設)、浜焼き施設(屋根付き)、仮設店舗(チャレンジショップ)		●
	体験活動	●ふれあい交流イベント広場(インターロッキング部 約3,000㎡、クレー舗装部 約1,500㎡)	●	
その他機能	子どもの遊び場	●体験学習室、調理実習室(管理棟1階、2階)	●	
	環境	●屋内交流・遊戯施設(全天候型)		●
		●電気自動車用急速充電器		
		●自家発電装置、防災資機材		●
		●サイクルラック、簡易工具など	●	

#### <施設配置イメージ(国道側)>



## (2) 施設の規模

### I) 駐車場の規模

現在の駐車場規模の設定については、北海道公園緑地技術委員会による「都市公園内の駐車場設計（H14）」の基準により、公園種別の「日最大利用者数」や、「利用者の回転率」などを基に必要台数を割出し、現行の駐車場ます数を設定したものでありますが、今後道の駅として道路利用者に対応した駐車場の規模を検討する際には、「国道 231 号」「国道 232 号」「国道 233 号」「高規格道路深川留萌自動車道」の道路利用を想定する必要があります。

道路交通量から現在の駐車場規模について、国土交通省「平成 27 年度道路交通センサス」の交通量を基に、NEXCO 東日本の「休憩施設設計要領（H17）」に基づき、各道路からの施設への立ち寄り台数から算出したところ、1 日あたりの平均交通量が小型車で約 5,300 台、大型車で約 850 台となっており、これらの台数に休日サービス係数を乗じ、必要な駐車場ます数を算出した結果、小型車駐車場ます数は 53 台、大型車駐車場ます数は 15 台と算出され、現行駐車台数（小型車 80 台、大型車 9 台）と比較すると、大型車が若干不足する駐車場ます数となっています。

今後、国道 231 号線の拡幅効果や、道の駅内の新たな施設整備後の利用者増などに対応するため、駐車場ます数の再算定による必要な台数の確保と、隣接する市道船場公園通りとのアクセス方法の工夫により、出入口での渋滞回避策などを講じていきます。

#### ○H27 交通センサスにおける平均交通量

※測定区間 A：道の駅小平中間点～船場公園～深川留萌道秩父別 P A 中間点

※測定区間 B：船場公園～大別苺 S T 中間点

区間 A	4,923 台/日（小型）①	988 台/日（大型）①
区間 B	5,783 台/日（小型）②	717 台/日（大型）②
	① と②の平均値 約 5,300 台/日	①と②の平均値 約 850 台/日

#### ★「駐車場ます」の算出式（NEXCO 東日本設計要領）

$\text{駐車ます数} = \text{計画交通量（平均値} \times \text{休日サービス係数）} \times \text{対象区間延長} \times \text{立寄率} \times \text{ラッシュ率} \div \text{回転率}$		
	↓	
	小型車	大型車
駐車場ます数	53 台（80 台）	15 台（9 台）

※（ ）は現施設における実運用駐車場ます数

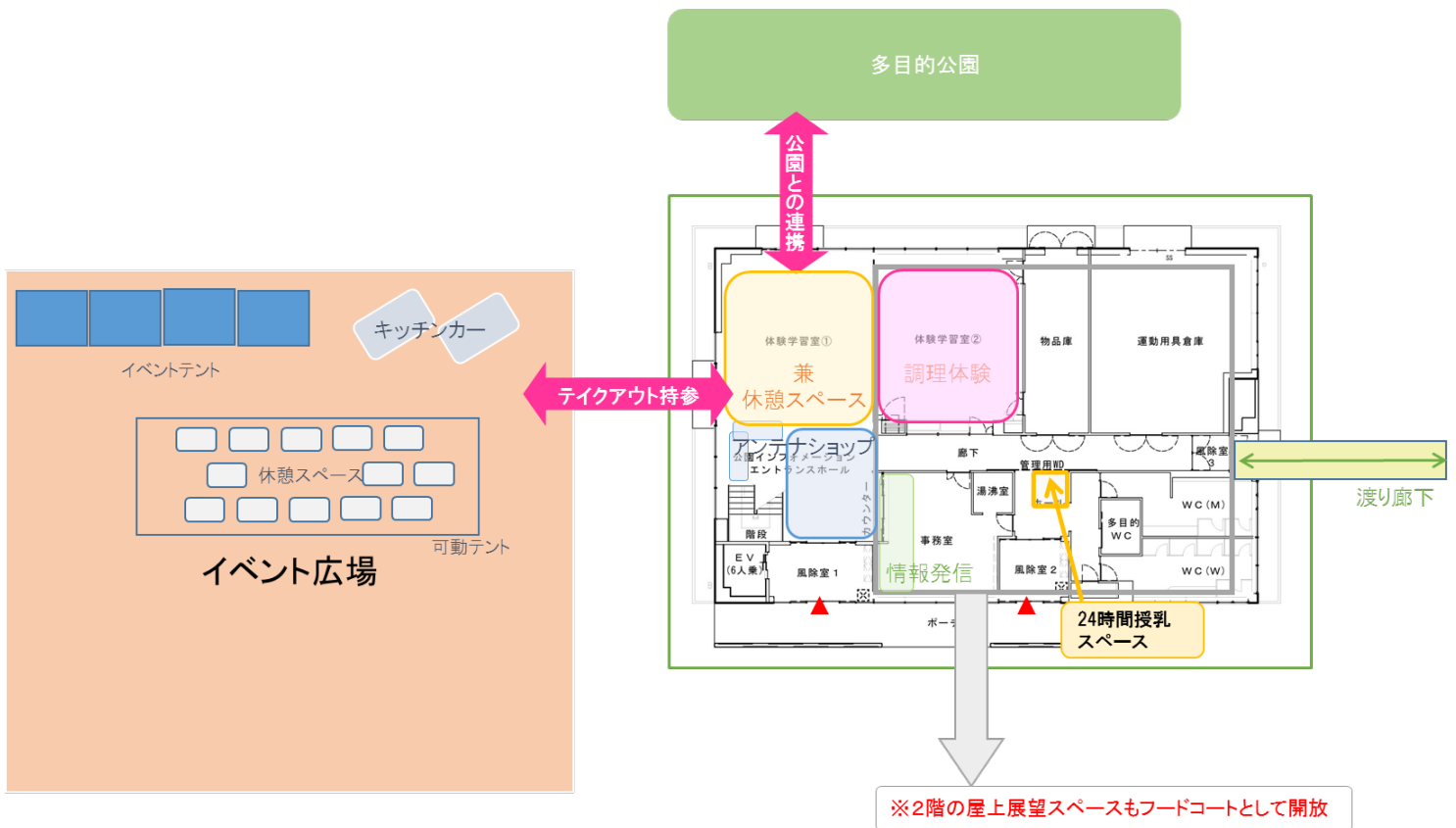
## II) 既存施設と広場の活用方策と計画図（施設配置①）

道の駅の基本機能である「情報発信機能」と「休憩機能」については、公園管理棟内の施設機能を活用することとし、エントランスホールを活用した「物販」については、品数やスペースの拡充により、アンテナショップとしての機能をより高めるとともに、1階フロアの休憩スペースとしての開放や、隣接するイベント広場と一体的な空間開放により軽食等の飲食ができるよう、施設配置を検討します。

また、24時間利用可能な授乳スペースの確保と、バラ売りおむつや液体ミルクの提供が可能な自販機の設置や、2階の屋上スペースについても、フードコートとして開放できるような、新たな活用方策について検討します。

管理棟横のイベント広場や周辺については、市内や管内の民間事業者を基本に、キッチンカーでの営業や仮設店舗を利用したチャレンジショップとしての営業、さらには週末のイベント時にテントを利用した出店など、広く事業者の参画や市民参加型のイベントを促し、自由度の高いスペースとして、主に手軽なテイクアウト品等を求める道の駅の立寄り者のニーズに応えるための、運用を図っていきます。

### <施設計画図>



※上記配置については、現時点でのイメージ図であり、異なる場合もあります。

### Ⅲ) 屋内交流・遊戯施設の規模とゾーニングイメージ案（施設配置②）

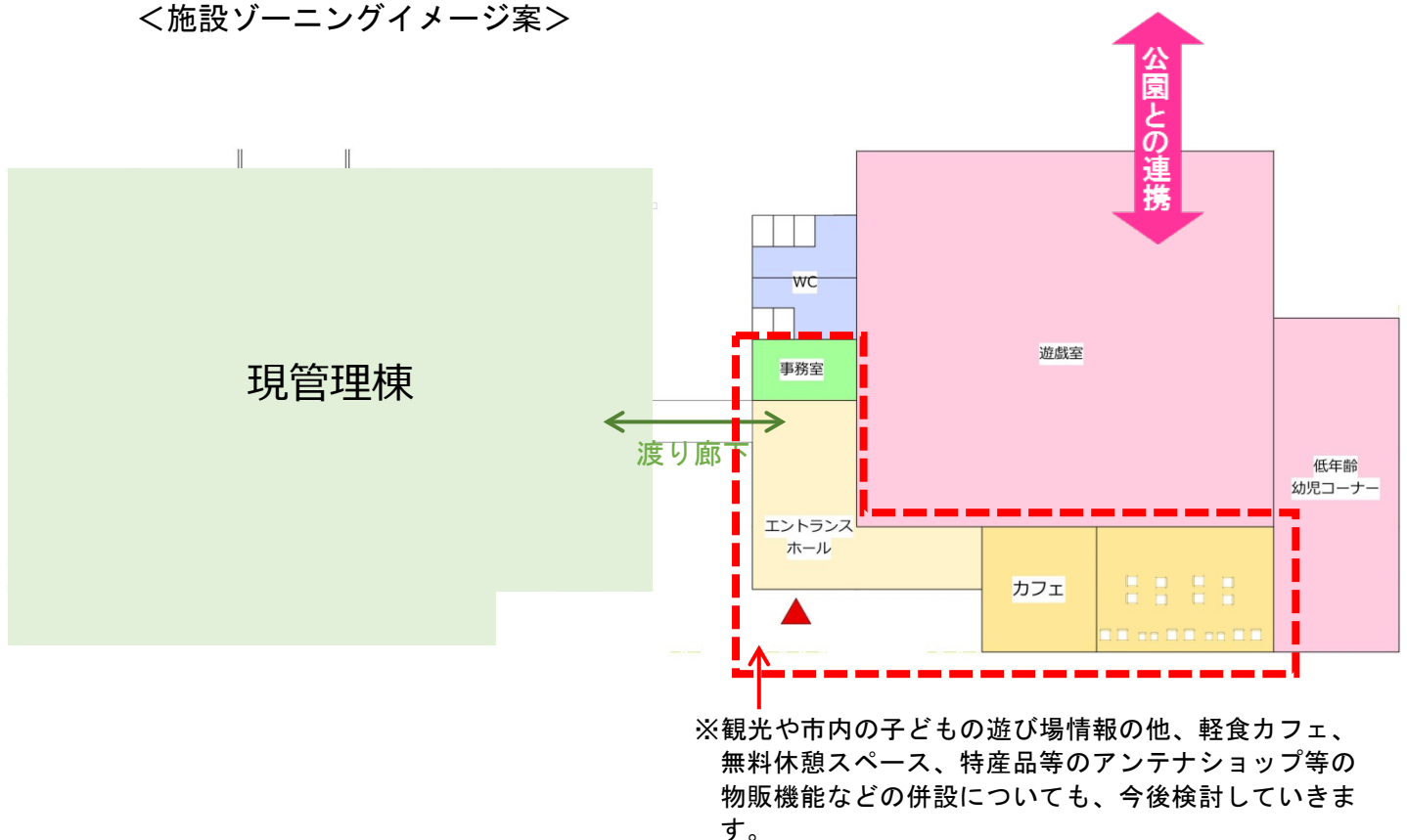
本施設については、公園機能との連携を意識しながら、観光客や地域の親子がゆっくり時間を過ごし、情報入手や交流しながら、親子で滞在がより豊かになるための施設として、屋内遊戯室のほか、子どもたちの活動が見えやすいカフェ機能や、無料休憩スペースの設置、地域特産品等のアンテナショップ機能も併設した交流施設として、新たに整備を検討します。

また、本施設には、活発的な運動だけではなく、市民活動としての絵本の読み聞かせや、知育玩具の配置、低年齢児コーナーの配置など、静的な落ち着いた室内空間を確保できるよう、施設ゾーニングを検討します。

併せて、トイレの他、育児や子育て世帯に優しいパウダールームの設置や、道産材の活用により、木のぬくもりを感じる施設や遊具の導入についても検討します。

施設規模については、他市の事例等から遊戯室部分については、概ね400㎡程度の広さを目安に、今後関係者の意見等も聞きながら、具体的な施設整備計画の検討を進めます。

#### <施設ゾーニングイメージ案>



※上記配置については、現時点でのイメージ図であり、異なる場合もあります。

#### IV) 屋根付き物販棟及び浜焼き提供施設の規模と計画図（施設配置③）

本施設については、主に飲食や物販を提供するため、市内の民間事業者のテナント参入を前提に、常設で営業ができる施設として、新たに整備を検討します。

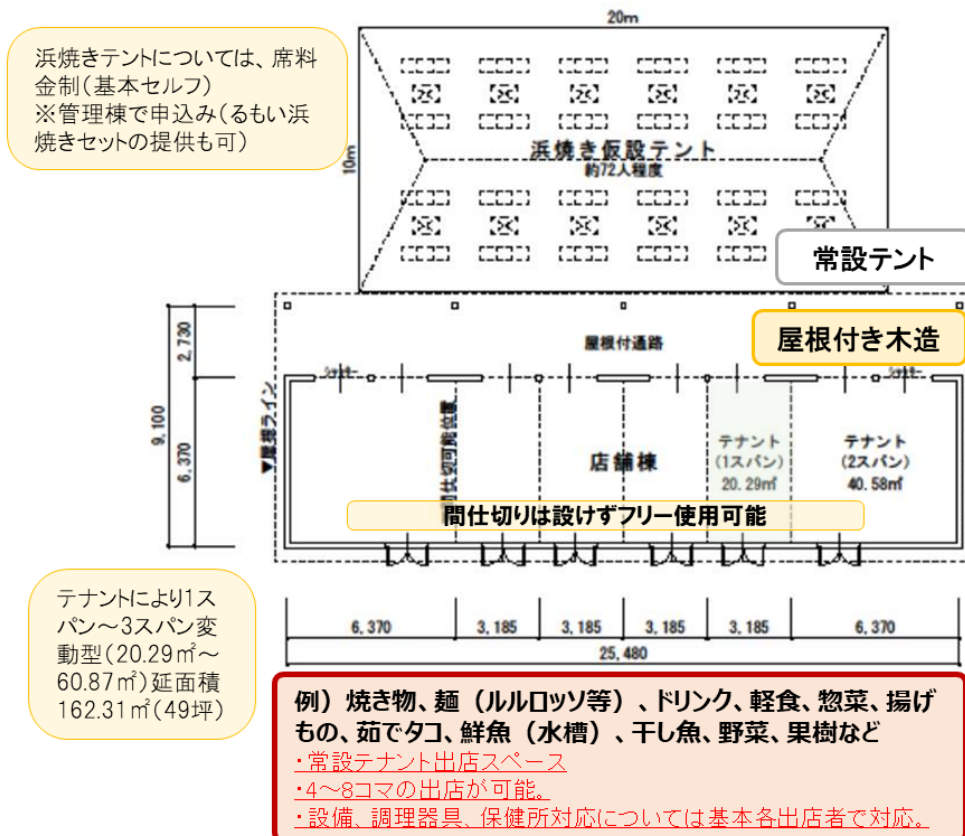
施設内では、「るもい浜焼き」で提供できる食材のほか、地域の素材等を活用したテイクアウト品や軽食等、さらには、農水産物や加工品等の提供が可能な市内や近隣の民間事業者を基本に、事業者の募集を行います。

また、浜焼き提供施設については、天候を気にすることなく利用可能な環境を整え、地域住民や観光客など幅広い利用が可能な施設として、物販棟と一体的な配置により、利用者の動線も意識しながら配置を検討します。

施設規模については、物販棟においては提供するテナントの種別により、1スパンから3スパン程度まで変動的に使用が可能なよう間仕切りは設けず、1スパン約20㎡を基本に最大8スパン可能なスペースを確保しながら、民間事業者の多様な出店ニーズに配慮した整備内容を検討します。一方、浜焼き提供施設については、50人程度の焼き台スペースと、物販棟で購入したテイクアウト品等を食べながら休憩可能な広さとして、約200㎡程度の広さとしします。

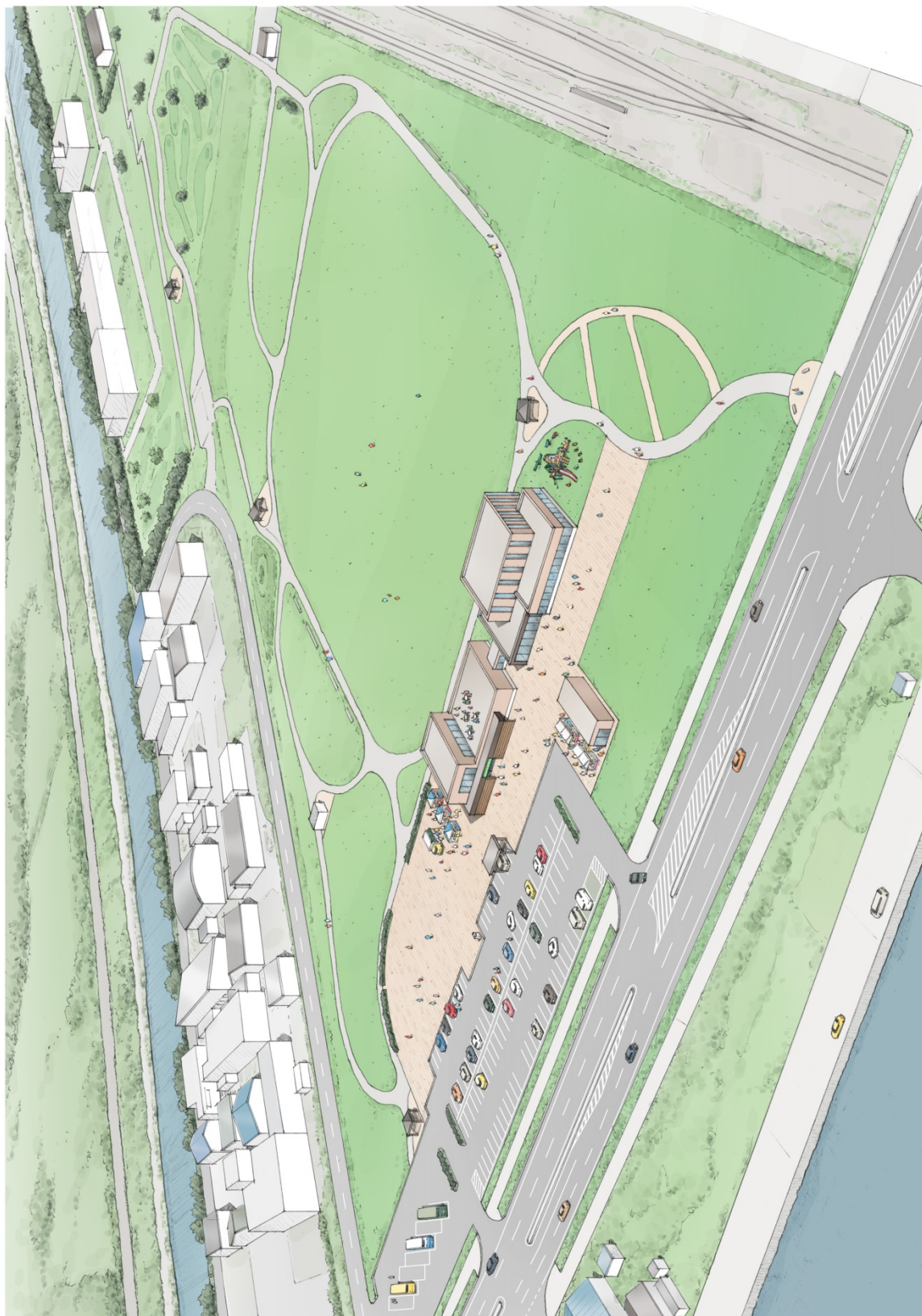
なお、施設配置については、国道側から見た景観や、港側からの風の影響も考慮しながら、配置の検討を行っていきます。

#### <施設計画図>



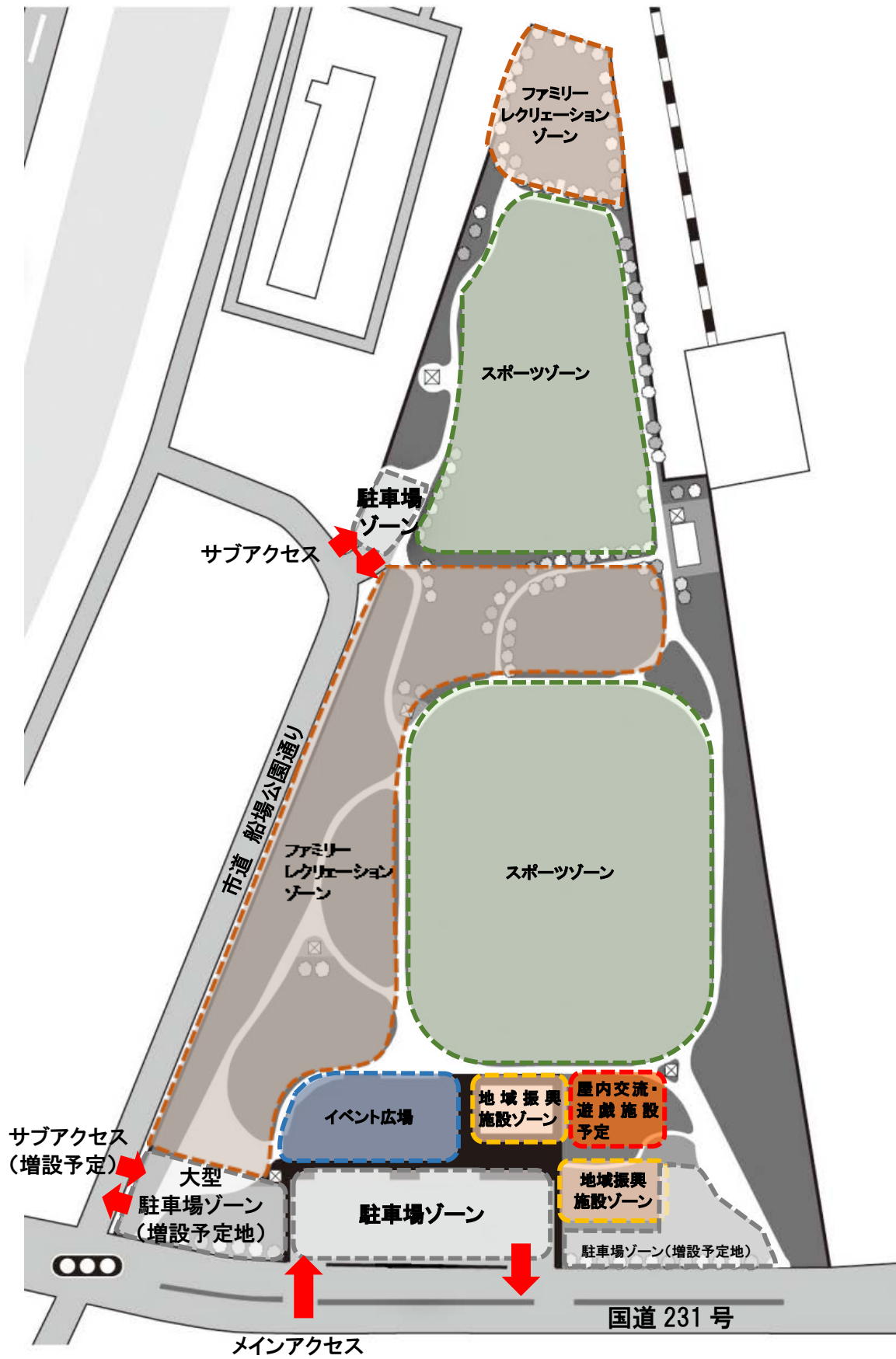


## V) 施設イメージ図



※この絵は現時点でのイメージ図であり、異なる場合もあります。

VI) 土地利用計画図





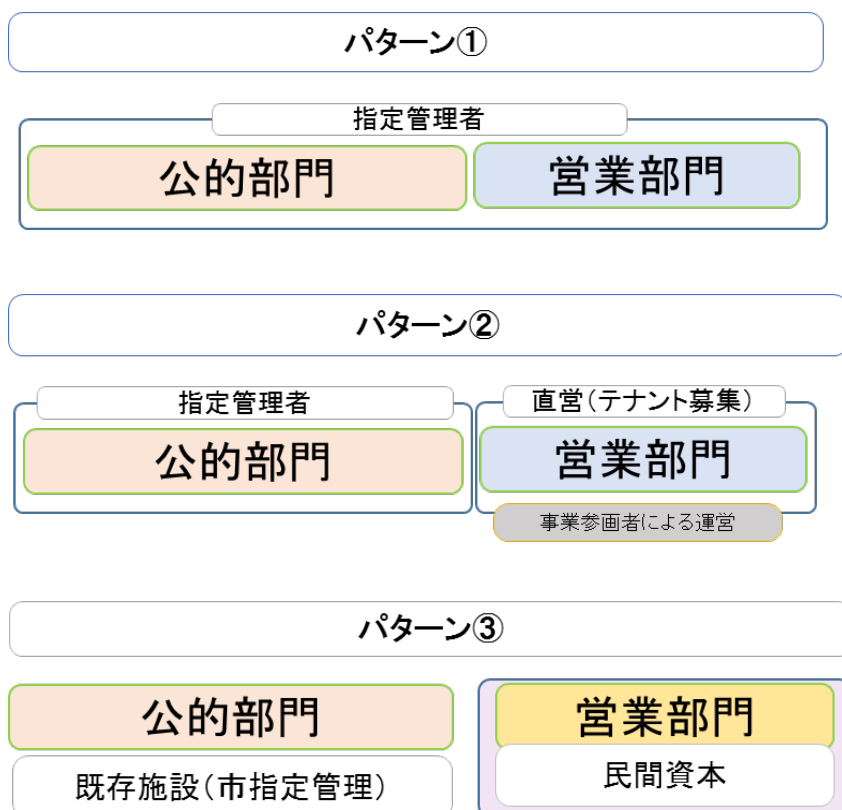
## 5. 事業運営手法

### (1) 管理・運営のあり方

道の駅の管理運営にあたっては、情報発信機能や休憩機能を満たすトイレ、駐車場などの「公的部門」と、特産品販売や飲食の提供など、経済効果が発揮できる営利分野に属する「営業部門」に分けて整理する必要があります。特に、「営業部門」については、民間感覚を活かした経営により、収益性の確保や高いコスト意識、地元事業関係者との連携や柔軟な発想により運営されるのが望ましく、民間活力の積極的な導入が求められます。

道の駅としての公共性を維持しつつ、方針やコンセプトを統一して管理を行うためには、「公的部門」と「営業部門」を一体的に管理することが望ましいと考えます。本公園施設については、これまで非収益施設として「指定管理者」による管理運営を行っており、道の駅としてのエリア登録により、既存施設（公園）の管理に加え、新たに道の駅としての賑わい創出や利用者ニーズに応えるための方策のほか、今後、段階的に整備を検討する新たな施設機能や、道の駅との相乗効果を高めるための民間資本による施設誘導なども視野に入れながら、管理運営手法を検討していきます。

#### <道の駅の管理、運営パターン>



※公園施設設置許可（市→民間事業者）

## (2) 管理・運営の手法選定方針

本道の駅については、既存公園施設である船場公園（るしんふれ愛パーク）の施設機能を活かし道の駅エリアとして登録し、当公園内や周辺に後年度、段階的に拡張する施設に応じて、エリアの拡張を図っていくものと、開業時における道の駅の全体運営は市と指定管理者との連携、協議により以下の運営体制を検討します。

### I) 公園施設（管理棟及び多目的公園等）

本施設については、これまでと同様、公募による指定管理者の管理運営とします。なお、公募にあたっては、本基本計画を参考に、公園利用者以外の道の駅利用者に対する、新たなサービスの提供等についての自主提案をいただき、市と協議の上、道の駅の運営に参画いただくこととします。

また、本施設内のイベント広場等におけるキッチンカーでの出店や、公園エリア内に設置予定の仮設店舗を活用したチャレンジショップ等については、市が指定管理者と協議の上、別途運用方針を策定し、事業者の参画を募りながら、賑わいづくりを検討します。

### II) 屋内交流・遊戯施設

新たな地域連携機能として、後年度に新たな屋内交流・遊戯施設の整備を検討します。その際、施設の管理運営については、既存公園施設と一体的な管理運営とするか、別の管理主体とするかについては、施設機能や概要等が明らかになった段階で、運営方法を検討します。

### III) 物販棟

民間事業者の参画を前提に、後年度新たな物販棟の整備を検討します。その際、管理、運営については、パターン②により市が指定管理者と協議の上、テナント募集を行い、複数の事業参画者による管理組合方式等の採用を検討します。

なお、テナントの公募にあたっては、利用料については市の条例で定めることとし、別途利用基準を作成の上、基本事項、概要、利用形態等を明示し、事業者については、市内又は管内の法人、個人、又は団体を優先し、参画を募るものとします。

## (3) 道の駅運営等に向けた検討組織体制

開業後においても、道の駅の運営やエリアとしての賑わい創出に向け、市や指定管理者、民間事業者など、関係団体による「道の駅（エリア）連絡会議（仮称）」を設置し、段階的な施設の拡張や、事業者のテナント誘導、イベント企画等について、皆さんの意見をいただきながら、検討を進めていくものとします。

## 6. 事業シミュレーション

### (1) 前面交通量による来場者数予測

本道の駅への来場者予測については、前面道路である国道231号からの車での来場者を前提とし、平成30年度に実施した交通量調査及び国土交通省データの資料を基に算出します。

#### 【現状】

項目	数量	備考
前面道路交通量 ①	5,000 台/日	平成30年10月調査結果 (12時間推計 小型車)
想定営業時間内交通量 ②	4,200 台/日	② $\div$ ① $\div$ 12h $\times$ 10h
立寄率 ③	6%	駐車場規模推計により (※平日・休日平均)
立寄台数 ④	250 台/日	④ $\div$ ② $\times$ ③
平均乗車人数 ⑤	2 人	NEXCO 東日本設計容量データの間値で 設定
1日当たりの来場者数 ⑥	500 人/日	⑥ $=$ ④ $\times$ ⑤
1年当たりの来場者数 ⑦	172,222 人/年	船場公園の年間トイレ利用者に対する 10月の利用率(9%)を割り返し ⑦ $=$ ⑥ $\times$ 31日 $\div$ 9%
年間来場者数(再掲)	172,200 人/年	平日・休日設定なし(端数整理後)

(信金中央金庫データにおける12時間推計を参考に算出)

### 高規格幹線道路深川・留萌自動車道全線開通、国道4車線化(全面道路)



#### 【将来交通量推計】

項目	数量	備考
前面道路交通量 i	9,600 台/日	平成27年度全国道路街路交通情勢調査 による推計(令和12年) (12時間推計 小型車)
想定営業時間内交通量 ii	8,000 台/日	ii $\div$ i $\div$ 12h $\times$ 10h
立寄率 iii	6%	駐車場規模推計により (※平日・休日平均)
立寄台数 iv	480 台/日	iv $\div$ ii $\times$ iii
平均乗車人数 v	2 人	NEXCO 東日本設計容量データの間値で 設定
1日当たりの来場者数 vi	960 人/日	vi $=$ iv $\times$ v
1年当たりの来場者数 vii	350,400 人/年	vii $=$ vi $\times$ 365日
年間来場者数(再掲)	350,400 人/年	平日・休日設定なし(端数整理後)

高規格幹線道路深川・留萌自動車道全線開通後、令和12年までに  
**年間約35万人の集客(小型車のみ集計)へ**

## (2) 前面交通量による消費予測

本道の駅への売上予測については、全面道路である国道231号からの車での来場者を前提とし、(1)で算出した将来予測の年間350,400人を基に算出します。

なお、来場者予測のうち、道の駅で買い物などを行う割合については、平成30年に実施した市外住民アンケート結果（直売40%、飲食30%、買物利用20%、その他10%）を参考として算出します。

区分	利用想定割合	利用想定人数	想定客単価	売上高
物産販売	20%	70,080人	1,280円	89,702千円
テイクアウト	5%	17,520人	480円	8,409千円
自動販売機	15%	52,560人	130円	6,832千円
飲食	10%	35,040人	本道の駅では本格的な飲食は提供しないため算出しない。	
農水産物等直売所	40%	140,160人	開業当初は本格的な直売所は設けないことから算出しない。	
トイレ等の利用のみ	10%	35,040人	0円	0千円
計	100%	350,400人		104,943千円

※ 便宜上、アンケート結果における「飲食」の利用割合30%のうち、本格的な飲食（レストラン等）の割合を10%と定義し、差し引いた残り20%をテイクアウト5%、自動販売機利用15%に振り分けて推計。

**本道の駅としての消費予測は、約1億4百万円**  
(来場者予測からの大まかな売上推計)

上記以外にも、本格的な飲食の利用、農水産物等の買い物などを希望する潜在的な消費人口は175,200人と想定。



道の駅の情報発信機能によって来場者を市内へ誘導

## 7. 今後のスケジュール

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
道の駅基本計画策定、管理運営方針決定、公園指定管理者の公募	→				
施設整備① (妊婦向け屋根付駐車場、24時間対応授乳スペース設置)	→				
仮施設(チャレンジショップ)の設置、既存管理棟機能拡張、イベント広場の運用		→			
道の駅開業 (R2年・春)		→ オープンイベント			
都市再生整備計画策定	→				
施設整備②-1 (交流・遊戯施設)		→ 基本設計	→ 実施設計 国費概算申請	→ 本体工事	→ オープン(予定)
施設整備②-2 (駐車場拡張、車中泊専用駐車場整備)			→ 国費概算申請		→ 設計・整備工事 供用開始
施設整備③ (屋根付き物販棟、浜焼き施設)			→ テナント事業者の意思確認		→ 設計、建築

※各施設における整備内容、事業費等については、個別の事業計画、実施設計により明らかにしていきます。

## 【参考】

### 留萌市道の駅基本計画（素案）に対するパブリックコメント結果

#### 1 パブリックコメントの実施状況

- (1) 意見の募集期間 令和元年10月9日（水）から  
令和元年11月8日（金）まで
- (2) 意見の応募者数 5名
- (3) 提出方法の内訳

提出方法	郵送	ファクシミリ	Eメール	持参	計
人数	1人	2人	1人	1人	5人

#### (4) 意見への対応

- ① ご意見を踏まえ、素案の修正を検討するもの
- ② 今後の参考とするもの
- ③ ご意見の主旨や内容を盛り込み済みであるもの
- ④ その他（本素案そのものに対するご意見でないもの）

#### 2 パブリックコメントの結果

##### (1) 「道の駅のコネクト」に関する意見

No.	意見	市の考え方	意見への対応
1	留萌の海産物といっても「数の子」くらいしか思い浮かばず、それ以外のものがあったとしても他地域に秀でるものを旅行客は認知していないため、留萌管内の海産物を購入可能とすれば購買力は増加するのでは、また、留萌管内をアピールすることで、管内の町村を訪れる旅行客も増え、市内に宿泊する客の増加も見込まれる。	本道の駅では、留萌市のみではなく留萌地域の玄関口としての機能を発揮できるよう、地域資源や食、人、活動の情報などを発信するほか、他の道の駅との連携を図りながら、地域全体のPRを行ってまいりたいと考えております。	②
2	一番の強みは留萌駅に隣接していること、列車を活用した道の駅利用者の集客を考えても良いのでは、留萌本線の継続にも寄与できる。また、公園で様々なスポーツ大会を開催できれば、選手を中心に数十人単位の人が集まり、また、列車利用なら子ども、高齢者も参加しやすい。	JR留萌本線の今後の動向もあります。周辺環境の変化に対応しながら、「コト」づくりに取り組み、道の駅を目的地化することによって、大勢の方に来訪していただけるよう進めてまいりたいと考えております。	②

No.	意見	市の考え方	意見への対応
3	留萌は真冬の荒天時に天気予報で放送され、冬の厳しさは全国に認知されているため、冬季の公園利活用として東北の地吹雪体験ツアーの留萌版として、真冬の強風体験ツアーやその他の冬季公園活用例として雪中サッカー、雪中ラグビー、雪合戦、雪壁迷路などのほか、他地域で実施していないものを体験できる場所・機会の提供を行ってみては？	冬期間における公園利活用策について、遊具や冬のスポーツ体験、地吹雪体験などのイベント開催により、冬の魅力づくりを進めてまいりたいと考えております。	①
4	セグウェイ、バランススクーターなど普段乗れない遊び感覚の乗り物や冬季のスノーモービルのレンタル、逆バンジーやジップラインなど大人や子どもが楽しめ、道内の都市公園でもあまり体験できないものを提供してみては？	多目的芝生広場やイベント広場などの公園施設、海に面した立地状況などを活かした道の駅での「コト」づくりを検討する上で、ご参考とさせていただきます。	②
5	「留萌管内最大のマチ」の特色を活かし、例えば管内の人が楽しめるものとして、パブリックビューイングの設置や管内のアマチュアコンサートやキッチンワゴンを使った管内料理を提供する留萌管内マルシェのほか、コミュニティFMへの出演（安易に出演でき、旅の思い出になる番組の製作）を行ってみては？		
6	公園と留萌川を隣接させ、船着き場を作り、船上からの夕陽ツアーなど海まで遊覧できるコースの設置や「船で行く管内の道の駅めぐり」を行ってみては？		

(2) 「施設整備方針」に関するご意見

No.	意見	市の考え方	意見への対応
7	市内飲食店を紹介できる掲示板を用意し、意欲のある店には有料で掲示板を利用してもらう。	街なかへの誘導に繋げる情報発信の手法を検討する上で、ご参考とさせていただきます。	②
8	妊婦向け24時間施設は必要なのか。	国では既存の24時間利用できるトイレ等の機能に加え、子育てを応援する機能など道の駅の機能を高めるための取り組みを進めており、道の駅への登録に際し、必須の要件となっているため整備を行うものです。	④
9	冬でも使える野外常設ステージを設置し、イベントで活用したら良い。	公園全体を活用したイベント等を検討する上で、ご参考とさせていただきます。	②
10	留萌ならではの「おもてなし」として、「道の駅」前の岸壁発着の漁船によるクルージングを行っては？	海に面する立地状況を活かしたイベント等を検討する上で、ご参考とさせていただきます。	②



No.	意見	市の考え方	意見への対応
11	愛犬を連れてドッグランで遊ぶ存分遊ばせたいというニーズがあるため、ドッグランが近くにあることを強くアピールしてください。	道の駅や公園の情報を発信するなかで、ドッグランの施設についても十分PRしてまいりたいと考えております。	④
12	札幌から日帰りで留萌へ来る家族旅行客を想定した場合、留萌での滞在時間となる4時間程度を費やせるもの（往復4時間をかけて来たくなるもの）がないと集客が困難では？	観光体験メニューの発掘、提供など、「コト」づくりを進め、回遊性を持ちながら街なかや管内への誘導に繋げる手法を検討してまいりたいと考えております。	③
13	翌日まで滞在するとしたら、よっぽど時間をつぶせるものがないと無理。		
14	高校生が参加できるコーナーを作ってほしい。カズモちゃん焼の販売など学生ならではのアイデアいっぱいの商品が生まだされると思う。	ご意見のとおり、地元高校生によるイベントの開催に取り組んでまいりたいと考えております。	③
15	留萌地方は道内でも例を見ない食材が豊富などところで、その特徴を最大限に活かした事業展開を行うのが自然な気がします。そのように考えるとカフェが事業の中心となっても良いと思うし、くつろぎの場と食を組み合わせて一体的となった運営は出来ないものかと。	本道の駅では、市内・管内の食などの情報を来訪者へ提供し、街なかや管内への誘導を行うことを目的としていることから、地域のアンテナショップ機能のほか、地域の食材を活用した軽食などを提供してまいりたいと考えております。	②
16	朝に札幌を出ると昼ごろに留萌へ到着し、物流、ビジネス、通過型の観光客の人達は、軽食で一休みという時間帯なので、もっと旨いものは、市内の飲食店へと誘導したほうが良い。	市内には留萌の魅力を発信できる飲食店等が充実しておりますので、道の駅において適切な情報を発信し、街なかへの誘導を行いたいと考えております。	③
17	他で食べられる「海鮮焼き」と「るもい浜焼き」の違いは？酒の肴とするのであれば車が運転できないのでは？	一般的な海鮮焼き（浜焼き）は魚介類のみですが、肉と一緒に魚介類を焼くものを「るもい浜焼き」としてPRしており、道の駅では来訪者のほか、地元の方にも様々な場面で手ぶらで気軽に「るもい浜焼き」に親しんでいただきたいと考えております。	④
18	道の駅は美味しいものが食べられるという強烈な魅力を少しずつ積み上げていかなければならないと思う。	本市を含め留萌地域は、高品質な南るもい米を始め、野菜や果樹、海産物などバラエティに富んだ一次産品に恵まれており、これらの地域資源を活かした地域ブランドの構築を支援し、情報発信を行ってまいりたいと考えております。	②
19	留萌から来たついでに美味しいものがあれば食べるが、札幌から往復6時間をかけても食べたいものは？		
20	生産者や事業者に参加してもらって、農産物・水産加工品を販売したほうが良い。	農産物、水産物や水産加工品は、道の駅利用者のニーズが高いものですが、地場の農水産物については、通年での提供が難しい状況のため、生産者等の協力を得ながら、品目の充実を検討してまいりたいと考えております。	③

No.	意見	市の考え方	意見への対応
21	留萌管内の特産品を売っても良いと思う。	留萌管内の情報発信の手法を検討する上で、ご参考とさせていただきます。	②

(3) 「施設整備計画」に関するご意見

No.	意見	市の考え方	意見への対応
22	シャワールーム、ドライヤーのついた洗面台や更衣室が必要	今後、整備予定の車中泊専用駐車場を検討する上で、ご参考とさせていただきます。	②
23	車以外の利用者の便が悪いため、留萌駅から公園への通路（未使用路線側）は直ぐにでも開設すべき。	道の駅へのアクセス環境の向上につきましては、船場公園周辺のまちづくりを進める中で検討してまいりたいと考えております。	②
24	（屋内交流・遊戯施設の）カフェの場所はイメージ図の場所で最適なのだろうか？	基本計画における屋内交流・遊戯施設のゾーニングイメージは現時点のものであるため、今後、具体的な施設機能を検討するなかで、配置場所についても検討してまいりたいと考えております。	②

(4) その他のご意見

No.	意見	市の考え方	意見への対応
25	国道232号からの立ち寄り率や認知率をあげるためには、案内標識とランドマーク的な建造物が必要。船場公園は国道から直接視認できないことから、公園直近で存在感がある「ルルモッペ大橋」を公園のイメージに取り込み、看板や広報などにも反映させることで「この橋で曲がる」という行動に結び付けることができると思う。	留萌地域の玄関口としての機能が発揮できるよう、道の駅のPRを進める中で、ご参考にさせていただきます。	②

(5) 道の駅に関する感想等

道の駅の計画は、面白い試みだと思いますので、皆が笑顔になるような道の駅になることを願っています。
列車で行けるのは良いと思う。子ども達だけでも駅を降りてすぐに公園なので行かせやすいし高齢者も利用しやすい。また、天候に左右される可能性はあるけれど列車であれば飲酒も可能で、冬季も運転しない分安心して利用できるし時間が正確なので計画も立てやすい。
留萌管内のドライブ（オロロンライン）は適度に道の駅などがあるので家族連れのドライブには適している。
留萌管内観光時の拠点としては良いかも。留萌に泊まりたいと思わせるものがあれば他地域を観光した後、留萌で宿泊し、翌日に帰るのはあると思う。

---

# 留萌市「道の駅」基本計画

留萌市道の駅整備庁内検討プロジェクトチーム

(事務局：留萌市地域振興部政策調整課)

令和元年12月